

平成29年度第4回千葉市都市文化賞表彰選考部会 会議録

1 日 時： 平成29年12月17日（日）午後1時30分～午後1時50分

2 場 所： 千葉市美浜文化ホール（千葉市美浜区真砂5-15-2）

3 出席者： （委員）

栗生委員、田口委員、八木委員、山崎委員、大内委員、松浦委員、
霜田委員

（事務局）

服部都市局長、松本都市部長、丸山都市景観デザイン室長、
稲増主査、島津主任技師、福永主任技師、田中主任主事

4 次 第

（1）千葉市都市文化賞表彰式

5 会議録

事務局

定刻になりました、ただ今から、

「千葉市都市文化賞フォーラム2017」を開催いたします。

本日は、お忙しい中、ご来場いただきまして、誠にありがとうございます。
す。

私は、本日の司会進行を務めます、千葉市 都市景観デザイン室の丸山
でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。

それでは、プログラムに従いまして、「平成29年度 千葉市 都市文
化賞」表彰式を始めます。

まず、主催者 および 今年度の受賞作品を選考しました、「千葉市
景観総合審議会 表彰選考部会」の委員の皆様をご紹介します。

千葉市都市局長 服部卓也でございます。

都市部長 松本真吾でございます。

続きまして、千葉市 景観総合審議会 表彰選考部会の栗生明部会長
でございます。

田口敦子委員でございます。

八木健一委員でございます。

大内啓子委員でございます。

山崎誠子委員でございます。

松浦健治郎委員でございます。

霜田亮祐委員でございます。

事務局 菊竹雪委員は到着が遅れております。以上、8名の委員により、選考いたしました。

それでは、主催者を代表しまして、
都市局長 服部卓也よりご挨拶を申し上げます。

服部局長 都市局長の服部でございます。
本来であれば、主催者を代表して千葉市長、熊谷俊人が、この場にてご挨拶申し上げるところでございますが、所用で欠席させていただいておりますので、私、服部より一言挨拶申し上げます。

本日は、年末の日曜日のお忙しいところ、千葉市都市文化賞の表彰式にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃より、本市の都市行政をはじめ、市政に多大なるご支援・ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

都市文化賞を受賞される皆様におかれましては、本当におめでとうございます。

そして、選考に携わられました、栗生部会長をはじめとする、選考委員の皆様にご挨拶申し上げます。

この都市文化賞は、都市を彩る街並みや広告物、地域や街づくりの市民活動など表彰する制度として平成23年度から始め、今年度で7回目を迎えました。

今年度は36点の応募があった中から、千葉市が全国に誇れる「都市文化」として高く評価されたグランプリが1点、優秀賞が6点の合計7点が選考されております。

今年度の応募総数は例年に比べ少なかったものの、質の高い作品が多く見られました。受賞作品の特徴としましては、周辺環境やその土地の歴史・背景と調和した建築物・広告物が高く評価され受賞となりました。特にグランプリを受賞した「東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟」は、20年かけて成長した豊かな森の風景の中に、見事に溶け込んだ建築物が計画されている作品であります。

千葉市の都市文化の発展のためには、こうした優れた景観を形成しているシーンを多く生み出すため「千葉市都市文化賞」で表彰していくべきだと考えております。

本賞の継続によって、市民の皆様や本市で事業を行う皆様、地域の価値や人々のアクティビティを高めるような、まちづくりを意識していただくことが、本市の都市文化としての魅力向上につながっていくものと期待しております。

本日、お集まりの皆様には、日頃のご尽力に感謝申し上げますとともに、都市文化が一層高まることへのご支援を、改めてお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

事務局

それでは、「賞状」の授与に移ります。
受賞者を申し上げますので、その場で ご起立をお願いいたします。
賞状の授与は、都市局長の、服部から行います、 よろしくをお願いいたします。

それでは、グランプリ受賞となりました

「東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟」です。

施主： 株式会社 東京クラシック

代表取締役 小島拓之様

設計：古谷デザイン建築設計事務所 代表取締役 古谷俊一様

施工：株式会社 松村組東京支店

常務執行役員 支店長 酒井正彦様

根本建設株式会社 代表取締役 根本憲様

代表しまして、古谷デザイン建築設計事務所の古谷俊一様ステージ中央へお上がりください。

おめでとうございます。

続きまして、景観まちづくり部門 優秀賞「稲毛八景 海の記憶をめぐる」です。

主催：いなげお話会様

代表しまして、元千葉市史・教育史編纂委員会専門委員 西川明様ステージ中央へお上がりください。

おめでとうございます。

続きまして、景観まちづくり部門 優秀賞「稲毛あかり祭夜灯」です。

主催：稲毛あかり祭夜灯実行委員会様

代表しまして、実行委員長 遠藤哲夫様ステージ中央へお上がりください。

おめでとうございます。

続きまして、景観 広告 部門 優秀賞「TIMBER YARD」です。

施主・施工：株式会社コージーライフ 代表取締役 並木浩 様

設計：有限会社設計アトリエ 代表取締役 瀬野和宏 様

代表しまして、株式会社コージーライフ 並木浩様ステージ中央へお上がりください。

おめでとうございます。

続きまして、景観広告部門 優秀賞「the Fam UNIVERSAL CHIBA」です。

施主：株式会社ユニバーサル園芸社 代表取締役社長 森坂 拓実 様

代表しまして株式会社ユニバーサル園芸社 海老沼賢様ステージ中央へお上がりください。

事務局

おめでとうございます。

続きまして、建築文化部門 優秀賞「高洲スポーツセンター」です。

施主： 千葉市

設計： 株式会社 I N A 新建築研究所 代表取締役社長 片桐裕明様

施工： 旭・式田建設共同企業体 代表構成員 旭建設株式会社

代表取締役 高橋昌宏様

代表しまして、株式会社 I N A 新建築研究所 森治郎様ステージ中央へお上がりください。

おめでとうございます。

続きまして、建築文化部門 優秀賞「東洋理容美容専門学校 本館」です。

施主： 学校法人東洋理容美容学園 理事長 柴入裕一様

設計： 株式会社 一空建築工房・千葉大学 鈴木 弘樹 研究室 准教授

鈴木 弘樹 様

施行： 旭建設株式会社 代表取締役 高橋昌宏様

代表しまして、学校法人東洋理容美容学園 柴入裕一様ステージ中央へお上がりください。

おめでとうございます。賞状の授与は以上となります。

受賞された作品の関係者の皆様、あらためまして、本当におめでとうございます。会場の皆様も、盛大な拍手を お願いいたします。

続いて、

2次選考まで進んだ作品をご紹介します。

「かわまち矢作モール」です。周りの住宅地に馴染み、自然環境に溶けこむ開放的な商業施設として応募がありました。

「花うさぎの会」です。公園に訪れる方が和み、感動する花壇づくりを目指して、自分達も楽しみ、勉強しながら活動しているとして応募がありました。

「石橋記念公園ほか 故 石橋氏寄附緑地」です。市街地の街並み景観に緑地を残し、故石橋氏の意志により守ることができた功績はとて大きいとして応募がありました。

「千葉オクトーバーフェスト2017」です。夏の夜の楽しい納涼景観を形成しているとして応募がありました。

「ZOZOマリンスタジアム」です。複数のデザイン案から人気投票を実施し、ファンの意向が反映されたデザインとなっているとして応募がありました。

事務局

「FIELD HOME」です。広い車道に面していながらも、目立ち過ぎることなく、目を引く広告として応募がありました。

「高浜ショッピングセンター」です。

ショッピングセンターの活性化とアートコミュニティー美浜の認知度向上を目指した作品として応募がありました。

「稲浜ショップ」です。稲毛高校・中学校の美術部と連携して、装飾画にある「小人」をロゴ化し、統一感のある看板にリニューアルしたとして応募がありました。

「旬洋膳 椿」です。看板の後ろにある松が立派で迫力のある、日本らしい印象の広告として応募がありました。

「美浜区 幸町団地 リノベーション」です。成長した緑や、積み重ねてきたコミュニティなど分譲団地のリノベーションには、優れた住環境があるとして応募がありました。

「神田外語大学 8号館」です。大きな曲面を描くカーテンウォールを建物の顔とすることで、内部の活動を外部にも伝える賑わいの景観を形成しているとして応募がありました。

それでは最後に、今年度の千葉市都市文化賞表彰選考部会の部会長をつとめられました、栗生明様より総評をいただきたいと思います。

栗生様、ステージ中央へお願いいたします。

栗生部会長

まずは、本日受賞された皆様にお祝い申し上げたいと思います。大変おめでとうございます。

先ほど都市局長からもお話があったとおり、本年度の応募作は景観まちづくり部門8件、景観広告部門17件、建築文化部門11件、3部門合わせて36件でした。応募数は例年に比べ少なかったものの、質の高い作品が多く見られました。書類審査で18点に絞込み、一日かけて現地審査を行いました。しかし、景観まちづくり部門は現地審査が難しい点があります。特にイベントにかかわるまちづくりは、イベント当日に審査するわけではないので、視覚的なものだけでなく、背後にある物語や、時間の経過による成果など多くの補足情報を集め、慎重に審査しました。

グランプリは「東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟」が満票で選ばれました。

「建築があることで風景になる」という、建築と環境の望ましいあり方の手本とも言える、ランドスケープと一体となった美しい建築です。いつまでも居たくなるような居心地の良い空間と、人と馬と自然と建築が織り成す、見ていて飽きない風景が実現しています。

栗生部会 先日、風景学の第一人者の中村良夫先生（風景学入門の著者）の講演を
長 聴く機会がありました。

「風景」は一朝一夕には作れない。作れないからこそ価値がある。時間の経過の中で、人間の生活が溶け込んだ「風景」には、独特の味わいや風格があり、まさに「都市文化」「生活文化」を表徴する共有財産ともいえよう。今後もより良い「風景」を作り出す一方で、既存の良い「風景」を誇るべきものとして大切に維持する努力が必要である。しかし、現代は政治的意図や経済原則が優位を占める為、せっかく積みあがった好ましい「風景」も、たちまちのうちに壊され、味気のないものになってしまうケースも多い。このような時代において我々は、政治、経済の枠組みのみでは語れない「風景の断片である風物」に注目すべきではないか。

このように、中村先生の話は「風景論」から「風物論」に移って行きました。「風景の断片としての風物とは何か?」「風物」とは、「風物詩」というフレーズで良く語られる。その地域固有の生活文化、四季折々の自然の変化、祭りや行事。つまりはその地域で生活する人間の、記憶や日々の暮らしそのものを愛でることである。人間がその地域で深く関わる環境、衣・食・住、を丁寧に観察し、それらに固有の名前を与えること。俳句や和歌に詠むこと。物語を創作すること。これらすべてが「風物」につながる中村先生はまとめられました。

今回の景観まちづくり部門では「稲毛八景—海の記憶をめぐる—」と「稲毛あかり祭夜灯（よとぼし）」が優秀賞を受賞しました。ひとつは海の記憶を「稲毛八景」と名づけ、皆で共有し、未来につなげていく試みです。一方は、同じく稲毛のあかり祭りを、稲毛の浜で昔行なわれていた「夜とぼし漁」から「夜灯（よとぼし）」と名づけ定着させてきたイベントです。まちづくりにおいて、その土地固有の名前を与えることで事物の意味を顕在化させ、「風物」に織り込み、地域を活性化させてきたこの二つの業績を高く評価しました。

最後にもう一度、受賞された皆様にはお祝いを申し上げたいと思います。おめでとうございました。

事務局 栗生様ありがとうございました。会場の皆様もう一度拍手をお願いいたします。以上を持ちまして千葉県都市文化賞表彰式を終了いたします。

皆様ありがとうございました。

この後、休憩をはさみまして14時00分から受賞作品の代表者と選考部会委員を交えまして、受賞作品の発表と「ちばの魅力ある景観と建築のために」をテーマにパネルディスカッションを行います。

お時間の許す限りご参加をお願いします。

— 以上 —

午後1時50分 閉会